



ASICS通信 2006.4.1~2007.3.31

53rd Term

アシックスはステークホルダーの皆様とより緊密な双方向コミュニケーションを図りながら、当社の企業姿勢に対するご理解を深めていただきたいと考えております。今回は、5か年計画「アシックス・チャレンジ・プラン (ACP)」の初年度評価、また「東京マラソン2007」のオフィシャルスポンサーとなったいきさつなどについて社長の和田がご説明します。今後も当社の戦略、トピックスなどの情報をよりわかりやすく、より親しみを感じていただけるようご提供してまいります。

スポーツ・健康・快適ライフを創造する世界ナンバーワン企業



アシックスの理念

【創業哲学】

健全な身体に健全な精神があれかし
“Anima Sana In Corpore Sano”

【アシックスの理念】

1. すべてのお客様に価値ある製品・サービスを提供する
2. 私たちを取り巻く環境をまもり、世界の人々とその社会に貢献する
3. 健全なサービスによる利益を、アシックスを支えてくださる株主、地域社会、従業員に還元する
4. 個人の尊厳を尊重した自由で公正な規律あるアシックスを実現する

アシックスの軸足—和田社長インタビュー	2
6年間の主要連結財務指標	6
連結営業概況	7
連結財務諸表	8
単体財務諸表	10
SportiVITÀ	11
会社の概況	13
株式の状況	15

「アシックス・チャレンジ・プラン (ACP)」の初年度である第53期は海外事業を中心に好調なスタートを切りました。今回は第53期の好調な実績、またACPの目標達成に向けての今後の課題についてインタビューしました。



代表取締役社長 和田 清美

当期の業績は好調に推移していますが、どのように評価していますか。

新たな中期経営計画「アシックス・チャレンジ・プラン (ACP)」の初年度であった第53期（2006年4月1日から2007年3月31日まで）の連結業績は、売上高1,945億円、営業利益202億円、当期純利益138億円と、売上高と営業利益が前期比二桁成長を実現すると同時に3期連続の増収増益を達成しました。ACPで、当社グループは「スポーツ・健康・快適ライフを創造する世界ナンバーワン企業」を目指し、第57期（2011年3月期）の連結売上高3,000億円（海外2,000億円、国内1,000億円）を目標にしていますが、その達成に向けて好スタートを切ることができたと感じています。

当社は40年程前から将来を見据えて積極的に海外投資を行い、事業のグローバル化を進めてきましたが、事業を展開するとともに、われわれの強みであるランニング分野に経営資源を集中してきました。こうした取り組みが現在の好業績を支えています。

前期に引き続き、海外事業が業績を牽引しました。とくに、欧米におけるアシックスのブランドイメージは想像以上に高く、「ニューヨークシティマラソン」や世界の主要マラソンにおいて、多くのランナーたちが当社の製品を使用しました。これは当社の技術の優秀さが高く評価されている証だと理解しています。

ASICS Brand

アシックスブランド

「アスレチックスポーツ」「スポーツライフスタイル」
「健康・快適」の領域の基幹ブランド



GEL-KINSEI



DS LIGHT II



GD.WALKERBABY
MT-JS II



RUN&GUN nextide CV

ASICS Brand



スマートトップ



スマートパンツ



ショルダーバッグ

好調な海外における取り組みを地域別に教えてください。

ヨーロッパ、アメリカ、アジア・オセアニアなど、それぞれの地域特性と当社ブランドの浸透度合いに応じた販売戦略をとっています。

ヨーロッパでは、「アシックス」とスポーツライフスタイルの領域に特化した「オニツカタイガー」という2つのブランドを柱として展開していることが強みといえます。

アメリカには広大な市場がありますが、当社が食い込んでいるのはランニング上級者向けの市場です。今後は一般向けに注力するとともに、アメリカにふさわしいスポーツライフスタイルの提案を行っていきます。

アジア・オセアニアについては、好調な韓国、オーストラリアを除くと、まだ成長途上の段階です。

また、スポーツアパレルにおいては、これまで中国や台湾で行っていた企画開発業務を本社主導に切り替えました。今後はランニングだけでなくアパレル事業も積極的に展開していく計画です。

海外が好調な一方で、国内事業は停滞気味です。

どのような対応策を講じていますか。

われわれは海外の好調さがこのまま続くとは考えていません。海外事業が踊り場にさしかかったとき、今度は国内事業が会社を支えることができるよう、いま国内への投資を活発化させています。

そのひとつが直営店の展開です。アシックスの売り場づくりや直営店の新規出店などを通じて、アシックスの品質や技術の高さをエンドユーザーに直接伝えていこうとしています。

今年3月に、当社の子ども用品を専門的に扱う「アシックス・キッズキューブ」を横浜市にオープンしました。この店舗では子ども靴「SUKU²（スク

スク)」と「WAN×TEN (ワンテン)」に加えて、子ども用バッグや新たに展開する子ども服を販売していきます。また、4月には、健康志向に対応した「アシックス・ライフール」の第4号店を大阪・なんばパークスにオープンしました。子どもから中高年までの三世代を対象とした直営店で、健康と快適をテーマに、ウォーキング、ランニング、フィットネス関連の商品を総合的に展開しています。



2月の「東京マラソン2007」ではオフィシャルスポンサーとなりました。 国内の活性化につながったのではないのでしょうか。

確かに「東京マラソン2007」(主催:財団法人日本陸上競技連盟、東京都)の宣伝効果は大きく、当社ブランドイメージの確立に大きく貢献したと思います。加えて同マラソンのスポンサー効果を活かし、国内における当社ブランドイメージの一層の向上を図るため、同マラソン開催直前の今年2月に東京銀座にランニング関連商品の直営店「アシックスストア東京」をオープンしました。最新の計測機器を用いて個々のお客様に最適なシューズをご提案するほか、ランニングの楽しさを提案するWomen'sナイトランなど、幅広い層のランナーに対してさまざまなサービスを提供していきます。

実は、「東京マラソン2007」のオフィシャルスポンサーになったのには、もうひとつの狙いがありました。ACPの目標である第57期(2011年3月期)の連結売上高3,000億円を達成するために、社員一人ひとりがこれまでと違う意識を持つ必要があり、社内の意識改革をさらに前進させたいというのが私の意図でした。その効果は着実に表れています。

Onitsuka Tiger Brand

オニツカタイガーブランド
「スポーツライフスタイル」
領域に特化した基幹ブランド



MEXICO66



FABRE DC-S



TAI-CHI



RUNSPARK

Onitsuka Tiger Brand



MEXICO Mid Runner



POLO SHIRT



Square Boston

ACPの達成のために取り組むべき今後の課題は何でしょうか。

スポーツアパレルで成果をあげられるかどうかポイントだと思っています。大切なことは当社が強みを持つ技術力で他社との差別化を図り、お客様に新しい提案をしていくことです。

インナーマッスルと呼ばれる筋肉を鍛えてカラダのバランスを整える「肩バランスアップアンダー」や「大腰筋強化スパッツ」などは、発売後大変人気のある商品となりました。第54期はそれら個々の商品を点ではなく面としてコーナー展開が可能な仕組みをつくることで、売上を拡大したいと考えています。

そのための原動力は、当社の創業以来、脈々と受け継がれてきたものづくりに対する情熱です。私自身も創業者である鬼塚喜八郎からそれを教えられました。当社が、メジャーリーグで活躍しているイチロー選手をはじめとする世界トップクラスのスポーツ選手と契約しているのは、彼らの厳しい要求に応える製品をつくることが、当社の技術力を高めるからにほかなりません。メーカーとして、いかにして技術を磨き、お客様に信頼される商品をつくっていくか。そこに尽きると思います。

最後に、株主の皆様メッセージをお願いします。

当社はいまACPの実現に向けて、海外における直販化、国内事業の活性化と新業態店舗の拡大など、さまざまな施策を推進しています。こうした取り組みを通じて持続的な成長と企業価値の向上を図ってまいります。株主の皆様には、これまでと同様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年6月

代表取締役社長

和田清美

6年間の主要連結財務指標

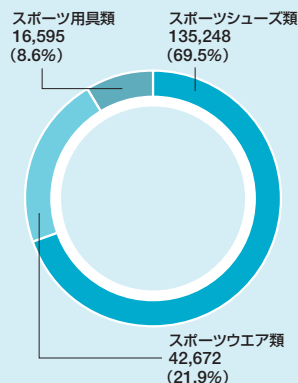
(単位: 百万円)

	平成14年3月	平成15年3月	平成16年3月	平成17年3月	平成18年3月	平成19年3月
会計年度:						
売上高	128,900	135,639	140,497	146,678	171,036	194,515
売上原価	82,937	86,393	87,461	88,243	98,578	110,050
販売費及び一般管理費	42,479	43,858	45,626	48,539	56,013	64,216
営業利益	3,483	5,387	7,409	9,895	16,444	20,248
当期純利益	2,122	5,169	4,622	7,006	13,806	13,878
会計年度末:						
純資産 (資本合計)	45,511	49,918	54,439	58,450	74,899	93,165
総資産 (資産合計)	114,740	113,062	118,338	122,587	140,614	154,959
1株当たり情報 (単位:円):						
当期純利益	9.92	24.09	21.80	34.39	69.02	69.72
配当金	—	2.00	2.50	3.50	6.00	8.00
純資産	212.73	233.50	261.82	293.17	375.79	450.78
指 標:						
売上高営業利益率 (%)	2.7	4.0	5.3	6.7	9.6	10.4
総資産当期純利益率 (%)	1.9	4.5	4.0	5.8	10.5	9.4
自己資本比率 (%)	39.7	44.2	46.0	47.7	53.3	57.9

注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

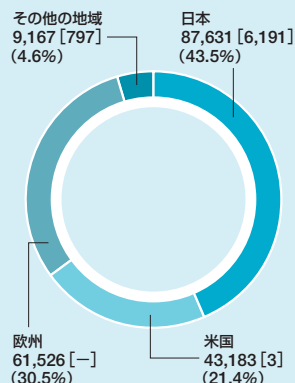
製品別売上高

(単位:百万円)



所在地別売上高

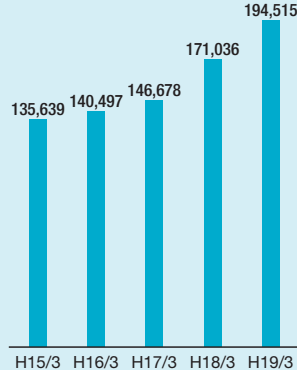
(単位:百万円)



※ [] 内は、セグメント間の内部売上高 (内訳) です。

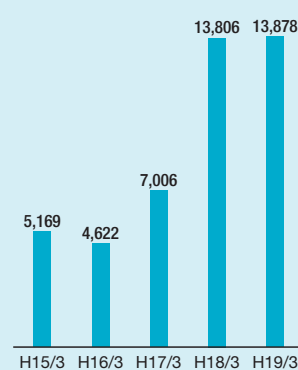
売上高

(単位:百万円)



当期純利益

(単位:百万円)



当連結会計年度における日本経済は、個人消費は横ばいに推移するものの、企業収益の改善と設備投資の増加が継続する中、景気は緩やかに回復してきました。世界経済は、原油価格など一部に懸念材料はあるものの、概ね堅調に推移しました。

スポーツ用品業界につきましては、健康志向によるスポーツへの関心の高まりが見られ、概ね堅調に推移しました。

このような情勢のもと、当社グループはランニング事業を一層強化・拡大するために、最上級モデルである「GEL-KINSEI」をはじめとする高機能ランニングシューズの世界市場投入や女性向けアイテムの拡充を図りました。また、ランニングをコアとした新しいライフスタイルを提案する直営店「アシックスストア東京」を東京銀座にオープンし、お客様に新たな価値を提供する機会を創出しました。

マーケティング活動の一環としては、「ニューヨークシティマラソン」、「東京マラソン2007」、「ゴールドコーストマラソン」、「ハンブルグマラソン」など世界の主要マラソンのオフィシャルスポンサーとして、参加ランナーへの情報・サービスの提供、チャリティーなども含め、アシックスブランドの認知度向上を図りました。

オニツカタイガーやスポーツライフスタイル事業につきましては、欧州、日本における積極的な直営店展開を行うとともに、アパレルの充実に努めました。

日本におきましては、子ども特有の足の動きや骨格などの研究に基づく商品アイテムを取り揃えるとともに、子ども用シューズからウエアまでを取り扱う初めての直営店「アシックス・キッズキューブ」をオープンするなど、売上拡大に努めました。

当連結会計年度における売上高は、1,945億1千5百万円と前年同期間比13.7%の増収でした。このうち国内は794億7千2百万円と前年同期間比0.7%の増収、海外は1,150億4千3百万円と前年同期間比24.9%の増収となりました。損益につきましては、営業利益は202億4千8百万円と前年同期間比23.1%の増益となりました。経常利益は221億9千8百万円と前年同期間比28.1%の増益となりました。当期純利益は138億7千8百万円と前年同期間比0.5%の増益でした。

連結財務諸表

連結貸借対照表

科目	第52期 (平成18年3月31日)	第53期 (平成19年3月31日)	増減額
資産の部			
① 流動資産	99,918	109,942	10,024
現金及び預金	12,055	10,933	△1,122
受取手形及び売掛金	49,381	55,236	5,855
有価証券	1,169	1,197	27
たな卸資産	32,125	35,795	3,670
その他	7,072	9,518	2,446
貸倒引当金	△1,885	△2,738	△853
固定資産	40,696	45,017	4,320
有形固定資産	15,814	17,278	1,464
建物及び構築物	7,217	8,251	1,034
土地	5,971	5,825	△145
その他	2,626	3,202	576
無形固定資産	1,531	2,631	1,099
投資その他の資産	23,350	25,106	1,756
投資有価証券	16,737	16,332	△405
その他	7,761	9,321	1,560
貸倒引当金	△1,148	△547	601
資産合計	140,614	154,959	14,344

注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

(単位：百万円)

科目	第52期 (平成18年3月31日)	第53期 (平成19年3月31日)	増減額
負債の部			
流動負債	46,177	48,886	2,708
支払手形及び買掛金	18,527	20,388	1,861
短期借入金	12,955	6,852	△6,103
1年以内に償還の社債	2,000	3,200	1,200
未払法人税等	1,376	5,662	4,285
返品調整引当金	813	893	79
賞与引当金	1,257	1,264	7
その他	9,246	10,625	1,379
固定負債	16,702	12,907	△3,795
社債	3,200	—	△3,200
長期借入金	4,228	4,173	△54
退職給付引当金	6,619	6,619	0
役員退職慰労引当金	561	511	△49
その他	2,093	1,602	△491
負債合計	62,880	61,793	△1,086
少数株主持分	2,835	—	—
資本の部			
資本金	23,972	—	—
資本剰余金	17,182	—	—
利益剰余金	30,703	—	—
土地再評価差額金	△747	—	—
その他有価証券評価差額金	4,272	—	—
為替換算調整勘定	△130	—	—
自己株式	△353	—	—
資本合計	74,899	—	—
負債・少数株主持分及び資本合計	140,614	—	—
② 純資産の部			
株主資本	—	84,062	—
資本金	—	23,972	—
資本剰余金	—	17,182	—
利益剰余金	—	43,458	—
自己株式	—	△550	—
評価・換算差額等	—	5,648	—
その他有価証券評価差額金	—	3,691	—
繰延ヘッジ損益	—	184	—
土地再評価差額金	—	△747	—
為替換算調整勘定	—	2,519	—
少数株主持分	—	3,455	—
純資産合計	—	93,165	—
負債純資産合計	—	154,959	—

流動資産

Point ①

流動資産は、現金及び預金は減少しましたが、売上高の増加に伴って受取手形及び売掛金、たな卸資産が増加したことなどにより、前年同期間比10.0%増加して1,099億4千2百万円となりました。

純資産の部

Point ②

連結財務諸表は、連結財務諸表規則の改正（昨年5月1日の会社法施行に伴うもの）により、「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が新設されました。

連結財務諸表

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	第52期 (平成17年4月1日～ 平成18年3月31日)	第53期 (平成18年4月1日～ 平成19年3月31日)
売上高	171,036	194,515
売上原価	98,578	110,050
売上総利益	72,458	84,464
販売費及び一般管理費	56,013	64,216
⑤ 営業利益	16,444	20,248
営業外収益	1,971	3,143
営業外費用	1,080	1,193
経常利益	17,335	22,198
特別利益	592	1,867
特別損失	561	67
税金等調整前当期純利益	17,366	23,998
法人税、住民税及び事業税	4,623	9,272
法人税等調整額	△1,897	81
少数株主利益	834	766
当期純利益	13,806	13,878

注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	第52期 (平成17年4月1日～ 平成18年3月31日)	第53期 (平成18年4月1日～ 平成19年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,985	13,606
④ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,264	△5,743
財務活動によるキャッシュ・フロー	△564	△10,424
現金及び現金同等物に係る換算差額	227	658
現金及び現金同等物の増加額又は減少額	2,383	△1,902
現金及び現金同等物の期首残高	9,365	12,055
新規連結による現金及び現金同等物の増加額	306	43
現金及び現金同等物の期末残高	12,055	10,196

注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

当連結会計年度 (平成18年4月1日～平成19年3月31日)	株主資本					評価・換算差額等					少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成18年3月31日残高	23,972	17,182	30,703	△353	71,504	4,272	—	△747	△130	3,394	2,835	77,734
当期中の変動額												
剰余金の配当			△1,194		△1,194					—		△1,194
役員賞与			△53		△53					—		△53
新規連結による増加高			125		125					—		125
当期純利益			13,878		13,878					—		13,878
自己株式の取得				△197	△197					—		△197
株主資本以外の項目の当期中の変動額(純額)					—	△580	184		2,649	2,253	619	2,873
当期中の変動額合計	—	—	12,754	△197	12,557	△580	184	—	2,649	2,253	619	15,431
平成19年3月31日残高	23,972	17,182	43,458	△550	84,062	3,691	184	△747	2,519	5,648	3,455	93,165

注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

営業利益

Point ③

売上高の増加と売上原価率の改善により、売上総利益が前年同期間比16.6%増の844億6千4百万円となったことに加え、主に広告宣伝費などの増加により販売費及び一般管理費が前年同期間比14.6%増の642億1千6百万円となったことなどから、営業利益は前年同期間比23.1%増の202億4千8百万円となりました。

キャッシュ・フロー

Point ④

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は136億6百万円となり、前年同期間比86億2千1百万円の収入増加となりました。これは主に、好調な実績を受けて、税金等調整前当期純利益が増加した一方で、売上債権やたな卸資産が増加したほか、法人税等の支払額が増加したことなどによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動により減少した資金は前年同期間比34億7千8百万円支出増加の57億4千3百万円となりました。これは有形固定資産の売却などによる収入があったものの、定期預金の預入、有形固定資産の取得および無形固定資産の取得による支出などがあったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動により減少した資金は前年同期間比98億6千万円支出増加の104億2千4百万円となりました。これは短期借入金の純減少、長期借入金の返済、社債の償還、配当金の支払による支出が増加したことなどによるものです。

単体財務諸表

貸借対照表

(単位：百万円)

科目	第52期 (平成18年3月31日)	第53期 (平成19年3月31日)
資産の部		
流動資産	50,321	50,405
固定資産	41,405	44,485
資産合計	91,727	94,891
負債の部		
流動負債	23,616	26,471
固定負債	13,757	9,579
負債合計	37,374	36,051
資本の部		
資本金	23,972	—
資本剰余金	17,182	—
利益剰余金	9,463	—
その他有価証券評価差額金	4,088	—
自己株式	△353	—
資本合計	54,353	—
負債資本合計	91,727	—
純資産の部		
株主資本	—	55,234
資本金	—	23,972
資本剰余金	—	17,182
利益剰余金	—	14,630
自己株式	—	△550
評価・換算差額等	—	3,605
その他有価証券評価差額金	—	3,554
繰延ヘッジ損益	—	50
純資産合計	—	58,839
負債純資産合計	—	94,891

注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(単位：百万円)

科目	第52期 (平成17年4月1日～ 平成18年3月31日)	第53期 (平成18年4月1日～ 平成19年3月31日)
売上高	71,904	72,211
売上原価	42,808	43,304
売上総利益	29,096	28,907
販売費及び一般管理費	25,161	24,585
営業利益	3,934	4,321
営業外収益	1,390	3,750
営業外費用	277	213
経常利益	5,048	7,858
特別利益	549	1,953
特別損失	655	40
税引前当期純利益	4,942	9,771
法人税、住民税及び事業税	708	3,274
法人税等調整額	△1,109	86
当期純利益	5,343	6,411
前期繰越利益	2,120	—
当期末処分利益	7,463	—

注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

Sportività（スポルティヴィタ）はイタリア語で「スポーツマンシップ」という意味になります。スポーツ（Sport）とライフ（Vita）の意味も込めており、当社のスポーツに対する想いをお伝えする特集セクションとして展開していきます。

スポーツ工学研究所で開発された高機能アンダーウェア「インナーマッスル」

人間の筋肉は、身体表層部のアウターマッスルと身体深層部のインナーマッスルに分類されます。当社は筋力や運動能力を向上させるには両方の筋肉を強化する必要があることに着目し、ウェアの開発に取り組みました。その成果が、カラダ本来の機能を取り戻し、理想のカラダづくりや運動パフォーマンスの向上をサポートする高機能アンダーウェア「インナーマッスル」シリーズです。カラダの深層部にあるインナーマッスルに働きかけ、動きをスムーズにするアシックス独自のテクノロジーが活かされています。

●肩バランスアップアンダー

肩関節は肩甲骨と上腕骨からなり、人体の関節の中で最も大きな可動範囲を有しています。その反面、非常に不安定で、アウターマッスルとインナーマッスルがバランスよく引っ張り合うことでようやく適正な位置が保たれ、スムーズに動きます。

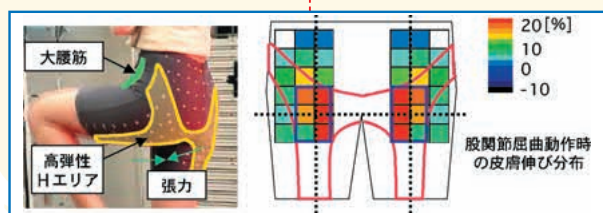
肩バランスアップアンダーには、背面にひし形の高弾性生地（ダイヤモンドバック）が組み込まれており、肩甲骨を脊柱方向に引き寄せることで、肩関節の可動範囲が拡大します。そのため、着用するだけで背筋が伸びることを実感できます。またスポーツにおいては、ランニングの腕振りなど肩関節運動機能や酸素摂取能力などをサポートする効果があります。美容・健康の面では、肩周辺筋肉の緊張緩和や姿勢補正などの効果が期待できます。



※特許出願中

●大腰筋強化スパッツ

大腰筋は腹部の奥にあるインナーマッスルで、脚を持ち上げる・上体を倒す、脊柱のS字湾曲を作る、骨盤の位置を保つといった働きがあります。大腰筋のトレーニングは、最近ではアスリートだけでなく一般向けの健康法としても注目されるようになりました。



※特許出願中

当社が開発した大腰筋強化スパッツは、背面に配置されたH型の高弾性生地（Hエリア）が大腰筋に効率よく負荷を加えます。スパッツを脱いだ後も効果が持続するほか、日常生活を送りながら大腰筋を強化できることが大きな特長です。さらに姿勢改善、アスリートの運動能力向上、加齢によるつまずき防止などが期待できます。

カラダとココロとアタマにいいもの～子ども向け市場の開拓

アシックスは、2007年3月、子ども用品を専門的に取り扱う直営店「アシックス・キッズキューブ」を「ららぽーと横浜」(横浜市都筑区)内にオープンしました。従来から展開していた子ども靴「SUKU² (スクスク)」と「WAN×TEN (ワンテン)」に加えて、子どもの視点に立った機能を織り込んだ子ども用バッグや子ども服を扱っています。店名は“子どもの成長を考えて開発された、カラダとココロとアタマ(CUBEの3方向の軸)にいいものがたくさん詰まった宝箱”との思いから名付けました。



●「SUKU² (スクスク)」シリーズの拡充

アシックスでは1997年より“土の上の「はだし」”をテーマにした子ども靴「SUKU²」を展開してきましたが、「アシックス・キッズキューブ」のオープンを機に、子ども服とバッグをシリーズに加えました。子ども服は“着ている服のことなど気にせずに「素肌感覚」で1日着ていても気持ちよく遊べる服”をコンセプトに開発したもので、独自のCuttingや肌触りがよく吸汗性のある素材の採用など、さまざまな工夫を凝らしています。バッグについては、子どもが使いやすいサイズの3タイプ(ショルダーバッグ、ドラムバッグ、バックパック)を用意しました。

ジュニア専用の野球用スパイクシューズを発売

2007年1月、小学生の足の成長に配慮した野球用スパイクシューズ「リトルホーマー」を発売しました。足指の形状が扇型で、土踏まずが未発達といった子どもの足の特徴に合わせて、足指に余裕を持たせた専用のラスト(靴型)を用いて設計しています。また、足裏を支える中敷、中底、ミッドソールのすべてにクッション性の高いスポンジ材「E.V.A.」を、かかと部には衝撃緩衝材「T-GEL」を採用し、足にかかる負担を軽減しています。



Column

ランニングライフスタイル提案型の直営店「アシックスストア東京」をオープン

2007年2月に東京銀座にオープンした「アシックスストア東京」は、商品の販売にとどまらず、新しいランニングの楽しみ方を提案する総合的なランニング専門店です。トレッドミル(ランニングマシン)による走行分析、専門的な計測機器による足型の測定による適切なシューズ選び、Women'sナイトランやレベルアップクリニックなどのイベントの開催など、ランナーとのコミュニケーションの場として当社がこれまで培ってきたランニングに関するサービスを提供します。また、足型の計測・分析や一部のイベントが無料となるメンバーシップシステムも導入しています。



会社の概況 (平成19年3月31日現在)

会社概要

社名	株式会社アシックス
創業	昭和24年9月1日
資本金	239億7千2百万円
事業内容	各種スポーツ用品及び各種レジャー用品 の製造および販売
本社所在地	〒650-8555 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL: (078) 303-2231 FAX: (078) 303-2241
従業員数	4,230名(連結)

役員 (平成19年6月22日現在)

取締役会長	鬼 塚 喜八郎
代表取締役社長	和 田 清 美
代表取締役専務取締役	爲 定 涼 次
専務取締役	岡 田 充 弘
常務取締役	清 水 裕一郎 尾 山 基
取締役	織 田 信 雄 千 原 芳 雄 池 崎 俊 郎 河 合 茂 之
常勤監査役	森 井 潔 岩 崎 隆
監査役	米 田 准 三 高 橋 靖 夫

営業所

関東支社
〒130-8585
東京都墨田区錦糸4丁目10番11号
TEL: (03) 3624-2240
関西支社
〒661-8577
兵庫県尼崎市潮江1丁目3番28号
TEL: (06) 6496-5111
北関東営業所
〒331-0812
さいたま市北区宮原町3丁目305番地 (杉ビル3 1階)
TEL: (048) 660-2931
広島営業所
〒732-0052
広島市東区光町2丁目6番24-101号 (光町三上ビル1階)
TEL: (082) 262-2133
四国営業所
〒760-0077
高松市上福岡町2060番地24
TEL: (087) 862-8611

直営店舗（平成19年5月31日現在）

- 歩人館 42店舗 ● オニツカタイガー 国内11店舗、海外10店舗 ● アシックス・ライフール 5店舗
- アシックスファクトリーアウトレット 10店舗 ● アシックススポーツスタイルショップ 1店舗 ● アシックスストア 1店舗



アシックスストア東京



オニツカタイガー 神戸



オニツカタイガー ベルリン



アシックス・ライフール なんばパークス

グローバルネットワーク（連結子会社等）

国 内

- 株式会社ニシ・スポーツ
- アシックス北海道販売株式会社
- アシックス東北販売株式会社
- アシックス九州販売株式会社
- アシックススポーツ販売株式会社
- アシックス中部販売株式会社
- 株式会社アシックススポーツビーイング
- 山陰アシックス工業株式会社
- アシックスアパレル工業株式会社
- 福井アシックス工業株式会社
- 株式会社アシックスユービッククリエーション
- アシックスキャピタル株式会社
- アシックスビジネスアテンダント株式会社
- アシックス物流株式会社
- アシックス商事株式会社

海 外

- アシックスアメリカコーポレーション
- アシックスヨーロッパB.V.
- アシックスドイチュラントGmbH
- アシックスフランスS.A.S
- アシックスUKリミテッド
- アシックスオーストリアGmbH
- アシックスイベリアS.L.
- アシックスイタリアS.p.A.
- アシックススカンジナビアA/S
- アシックスノルウェーA/S
- アシックススウェーデンAB
- アシックスデンマークA/S
- アシックスオセアニアPTY.LTD.
- アシックスタイガーブラジルLTDA.
- ヒューラックスコーポレーション
- 愛世克私（上海）商貿有限公司
- 台湾亞瑟士股份有限公司
- 江蘇愛世克私有限公司
- 愛世克私香港有限公司

株式状況

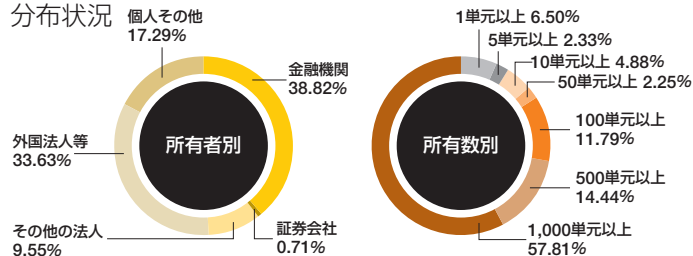
発行可能株式総数 790,000,000株
 発行済株式の総数 199,962,991株
 (うち自己株式952,276株)

株主数 14,274名

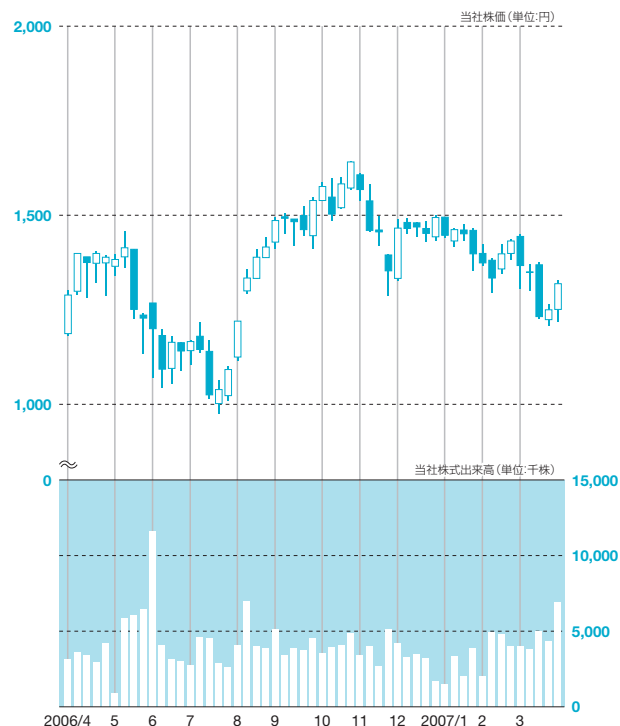
大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	13,174	6.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	10,850	5.5
株式会社三菱東京UFJ銀行	7,858	3.9
日本生命保険相互会社	6,310	3.2
ビービーエイチ フォー バリアブル インシュランス プロダクツ エフティスリー エムアイディー キャップ ポート	5,718	2.9
株式会社三井住友銀行	5,607	2.8
株式会社みずほコーポレート銀行	5,558	2.8
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	5,160	2.6
ノーザントラスト カンパニー エイブイエフシー リ フィデリティ ファンズ	4,353	2.2
株式会社みなと銀行	4,208	2.1

分布状況



株価・出来高チャート (週足)



株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
 定時株主総会 6月中
 株主名簿管理人 みずほ信託銀行株式会社
 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
 同事務取扱場所 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
 同取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
 みずほインベスターズ証券株式会社
 本店および全国各支店

郵便物送付および
 電話お問い合わせ先

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒135-8722
 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
 電話0120-288-324 (フリーダイヤル)

基準日
 期末配当金受領
 株主確定日
 公告掲載新聞

3月31日
 日本経済新聞 (大阪)

IRに関する発表資料、決算発表資料、アニュアルレポート (英文) など株主・投資家向けの情報については当社ホームページ (<http://www.asics.co.jp>) に掲載しています。